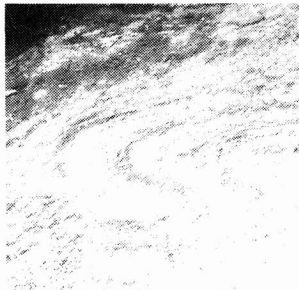


たい積当時、北東から南西の方向の流れが推定される。

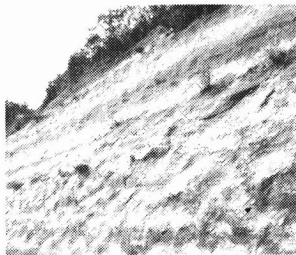
2) スランブ構造 (層内しゅう曲)



地層がグニャーと曲っているが、その上と下の地層は水平地層でうねっていない。不思議な地層である。

このような構造はスランピング (層内しゅう曲) と呼ばれており、湖底や海底の傾斜面にたい積した泥が、まだ固まらないうちに動かされ (小規模な地すべり) たため、泥層がうねってできた模様である。このようなスランピングの見られる地層の多くは粘土層に多い。

3) ブル・アパート

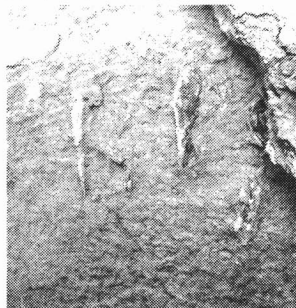


層理面に沿って、泥岩のブロックが、ダンゴの串さしのようにちぎれて所々に並んで入っている構造をブル・アパートという。

双葉南小学校 (鮮新統)

この構造は、湖底や海底に積もった泥が、固まらない間にすべり、ちぎれてブロックになったもので、また、水中の乱流の生ずる水底面でもできる。

4) サンド・パイプ



楢葉町 (鮮新統)

これはサンド・パイプと呼ばれ、これは昔の生物の住んだ跡であるので生痕化石である。

5) クロスラミナ (斜交葉理)

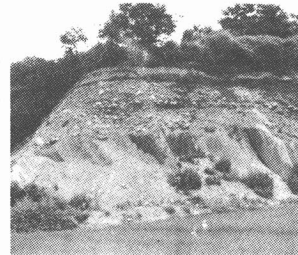
砂岩層によく見られる模様で、斜めに波が交わり合っているような構造をしている。この模様を斜交葉理という。この葉理は三角州のように流路や水量がたえず変化する所にしやすい。



新地町 (鮮新統)

6) 不整合

傾斜している砂岩層やシルト層の上に、ほぼ水平にレキ層が重なっている。このように、地層の重なり方が途中で不連続



になっている場合を不整合といい、不整合ができるのは、地層がたい積している途中で地かく変動があつて、たい積が中断されたことを意味している。

山都町 (鮮新統と段丘たい積物)